

神道
大祓詞畧注

上

7
5

東泉園書

二五	一七			
冊	号	架	函	屬

類

權大教正本居豐穎閣

權少講義坂田安治撰

神道
禊教

大被詞畧注

全二冊

神道禊教院藏版

受讀之儀乃以百道成此後世學之

道母被分一繁本本本繁本初

之意母燒線乃如得那巨數心

振起上學一途乃本路因本末

少獲受勉勤乞彼朝之世露夕

權大教正本卷卷額關

權少講義坂田安治撰

神道
禊教

大被詞畧注

全二冊

神道禊教院藏版

宗廟之儀乃百道成況及學子之

道母彼方一繁本本本繁本本

之意也繞線乃如得那巨越心

東振起上字一送乃本路因本末

少境多勉勤乞彼朝之送露少

くはきりす節風うはり吹拂事
之めく「建」惑はあせりか云將果るる
素教徒善法い義らる雨雨世々
権大いあはむおみ書報職は

明治十五年九月

大教の詞はたまたまを貴くして生るは父の
とる白川神祇伯玉の殿小仕たりは
を訓はまふしてまゐらる授け又假
名をたして婦女童輩示したる
なともありしを今安治のこの大枝河
田管領を曲るるの事かまふかま
あてしむるにしむるは信らひは異

のん^{イッ}に^ト行^トきと^ト取^トら^トて^トよ^トひ^トき^トこ^ト思^トひ^ト感^トひ^トて^ト其^トの^ト事^トを^ト
 貴^ト言^トの^ト意^トも^ト得^トる^トが^トび^トび^トと^ト深^トく^ト今^ト及^ト所^トふ^トと^トて^ト
 大人^トの^ト説^ト明^ト一^ト給^トへ^トる^ト事^トと^トも^トま^トう^トふ^ト後^ト華^トの^ト又^ト事^トを^ト
 記^ト傳^トと^ト他^トの^ト書^トよ^トり^トて^ト程^ト簡^トよ^ト分^トり^ト易^トく^ト書^ト加^トへ^トり^トて^ト
 大^ト被^ト祠^ト畧^ト注^トと^ト題^トけ^トて^トけ^ト書^トと^ト携^トへ^トる^ト事^トを^ト

明治十六年八月

坂田安治



神道 大被祠略注上卷

權大教正本居豊頼閣

權少講義坂田安治選

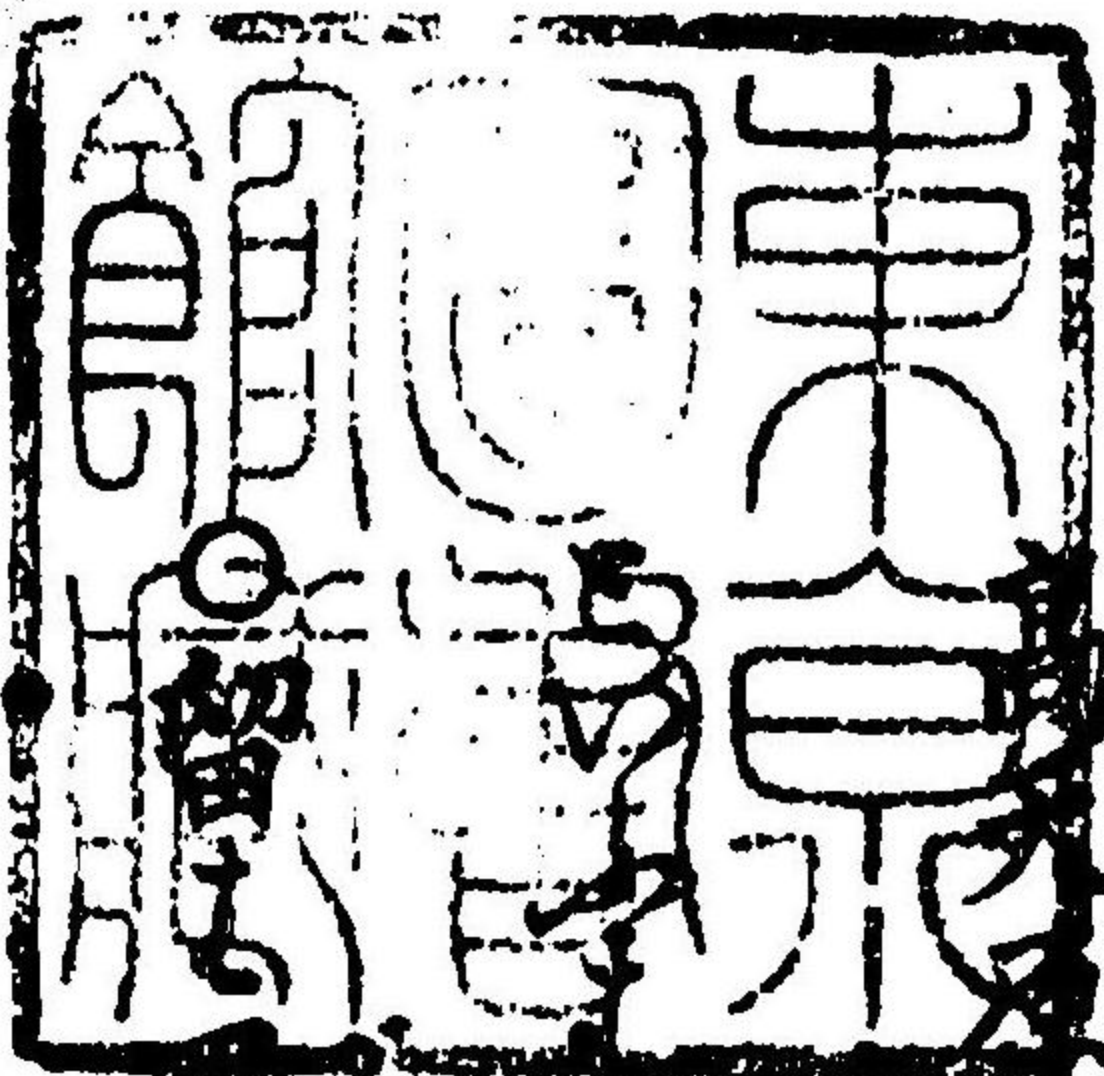
高天原 神留坐

たかまのほりあみ

あまのかみ ましま みくに

ハ天なりすちち天神の坐と御國なり高天原
 其天ありてある事と此大地ありて語る事との縁之

是麻里と訓べー都麻流と即ちともなるなり今の



俗言俗言も物の滞滞りてゆゑにあらる事なりとも

まる意意もて同同とて留留と申申をよよハ皇御孫命の高天

原原とよとよもて此國此國に降坐降坐ふ對對て降坐降坐さぬ神と留留り座

とは申申せる申之神之神と神集神集神議神議なり類類をを九九て神の御御り

の事事ふりふり言言なり加牟加牟と牟牟とと體體に唱唱ふるふる古言古言を正正し

なり

スヲラガムツカムロギカムロミノミコトモナチ
皇親神漏岐神漏美乃命以也

皇ハ須賣良賀と訓訓べべすすたたももちち天皇の御事と申申を

なり須賣と申申を御號御號ハ神とも尊尊とみみてていいづづもの神神も

皇神と申申を思思へへむむとといたいたなな尊尊むむ言言たたるるべべ○親親も

牟都云牟都云と下下よよつつくく言言なり皇吾睦神漏岐命神漏美命

まま親神魯伎親神魯伎などなど例例あるあることことなるなる○神漏岐神漏美ハ

男女の皇祖神男女の皇祖神たちたちををささてて申申を御號御號なり○命命以以也也と

詔命詔命を以以て仰仰せせつつけけららるるといいふふ此事下の止事依奉伎也

いふへかゝる言なり

八百萬神等乎神集々賜比神議々賜氏

都度比と都度閉とハ自他の差と都度比ハ自集ふなり

都度閉ハ令集の約まりたるも他と集ふもむるこゝハ

命以てたをむと都度閉なり

我皇御孫之命波

我ハ皇祖神たちの我之御孫ハ美麻とよむべしさてこの

御孫命ハ迹と藝命とさして詔ふなり

これよりして後代この天皇の御孫をかく奉るこ

豊葦原乃水穗之國乎安國止平久所知食止事依奉岐

豊葦原乃水穗國とよ此御國を譽稱へて高天原よて天神

の辨け給ひなり○安國とよ此皇國と天皇の安らけく

見そなはしきなりめすよ○事依も宇のじとく事

と寄まなり寄まハ委託するなり

如此依志奉志國中尔

此祝詞の内小國中と云るに二つ有り一つの俗言ふも國中と
いふ意よそらふそれなり久奴知と訓べ一今一つも四方之
國中くになかの所ふスベ一

荒振神等波アラフルカミドモヨバ

荒あらびいちちとやびて惡あき神たちなり

神問カントハシニトハシタニヒカムハラヒニハニタニヒ志賜神掃掃賜此

是ハ天神の命みこともち以て皇御孫命すめみまのみことと天降あまた給ふよりて經津

主神武甕槌神等御使となりて天降り給ひ大名持神たほなもちのかみ此國と

避奉さぐまうらむやと問申とひ給ひます天の下の荒あらぶる惡あき神たちを

悉ことごとく拂平さらひたまひしをいふ問とひ志し問とひを延ひくる言なり

語問志磐根樹立コトトヒシイハネキネタチ

物ものいふことを古へとていふと上なる神問ことと異なり

○磐根いしねハたが磐いちを根ハ添そていふ言こと○樹立きりたと木のきりた事こと之

書紀き小本こほん株かぶと書かきたるを以て知るしる株かぶハ字書じり

木根也きねと注せり。

草之垣葉クサノカキハ乎語止モコトヤシ氏ノ

垣ハ借字なりたつとまろりのり龍田祭祀詞かまハ片葉かまと有りかま關葉かまの意かまと

草ひの一葉はまでとひ意はなりひ止やの夜米やとせ止やの約つと

なれど他たとて止や志まむる意まなりまかこくりことこ従前こ此國こ

中に禍神まがの荒あびあまあしてく草木く磐さの類たまであ物言あふあなりあ

事ことありこととこととこと鎮しめし平へもへとま其物まの言まとまとまとま

靜穩しずかなる世中よなるよたままひひととなりなり

天之磐座放アメノイハクラハナシ

天磐座あめと皇御孫命みまろの高天原たかまのほらとたかまのほらの御座所ござをごひひ磐いと

と堅かきをかひひ称言たなりた○放はなと其御座所まをま離はなとはなたままをま

ひひなりなり

天之八重雲アメノヤヘガモ乎伊頭イツノ乃千別チワキニチワキチ氏ノ

天之八重雲あめと皇御孫命みまろの天降ありあまた道みちはみちいく重へも立た

重かさねアともも雲くもなり○伊い頭づかと後い威つふて御ご威お勢せいをいふ○千ち別わかの
千ちハ借か字じよも道みち別わかなり

天降アマクダシ依シヨサレ志マツリキ奉マツリキ支マツリキ

天降あまくだりハ天神あまのみことの詔命みことを以て皇御孫命みまのみことと降くだらるゝの給たまふな

是こゝハ此所こゝの天降あまくだりハあまのこゝと訓よむ○依よ志し奉まつり支まつりハ前まへふ

事依奉ことまつりまつり岐まとあると同ト事ことなる中なかふ前まへなるも先まへ仰おほ付ま

なまををいひ此所こゝなるもいふく實地おつちに臨りまゝの給たまふると

いふなり

如此かく久く依よ志し奉まつり志し四方よも之の國中なか登か

國中こゝも上あなるも異ことなるも天あの下しも四方よもの國くに此こゝ中央ちゆうなり

久く尔に那な加かと訓よべ

大倭オホヤマト日高見ヒガカミ之國のくに乎や

大倭おほやまとと大和やまとの國くになり○日高見ひだかみの國くにとは山やま

遠とほく打うたれて平ひららるる廣ひろき地ちといふなり山やまの近ちかき地ち

重かさねなる雲くもなり○伊い頭づかと後い威つふて御ご威お勢せをいふ○千ち別わかの
千ちハ借か字じと道みち別わかなり

天降アマクダシヨサレマツリキ依左奉支

天降あまくだりハ天神たへみことの詔命みことを以て皇御孫命みまろのみことと降くだらるゝめ給たまふと

是こゝハ此こゝ所こゝの天降あまくだりハあまふとと訓よむ○依左奉支ハ前まへ小こ

事こと依よ奉まうり岐まとあると同ト事ことなる中なか小前こまへなると先まへ仰うや付ま

たまふをいひ此こゝ所こゝなるといふく實地じつちは臨のぞまるゝめ給たまふと

いふなり

如此かく久く依よ志し奉まうり志し四よ方かた之の國くに中なか登のぼ

國中くにと上かみなるとい異ことなりとは天あめの下した四よ方かたの國くに此こゝ中なか央あたなり

久く尔に那な加かと訓よべ

大倭オホヤマトヒダカミノクニナリ日高見之國ひたがみのくに乎や

大倭おほやまとと大和やまとの國くになり號なづの義ぎハ國くに考かう○日高見ひたがみの國くにとは山やま

遠とほくく打うたれて平ひららるゝ廣ひろき地ちといふなり山やまの近ちかき地ち

まてハ山と空の日の間近く見え日と見ること低きより
まてて廣き地と山の遠き故に山と空の日のあひほど遠く
して日の高く見ゆる物なりとむなり大和國の中央ハ廣く
平らなる地なりと以てかくしむ

安國止定奉氏

この安國と殊に幾内の大和といひて大宮敷いまして安見
給ふ國と定むる之上ハ廣く天の下とあり一めすとす

とはすこ一異なりとも安見一玉ふ意ハかなどして大和
の都といへるハ神武天皇以後の御事なりとはまなり其
御世も大被ふひなりへる詞もそも有べ

下津磐根 爾宮柱太敷立高天原 尔千木高知氏

下津岩根と底津岩根といふに同じく地の底ハある石を
いふなり凡て上代の宮造も故小礎と云ふ地を掘て柱と立
る故小地の底ハ本よりある石根まで深く掘て立るといふ

義よめて其その柱かたの堅かたくして動ふ無なきよりの稱な言ごなり○太ふ敷じ立たハ
太ふ知ち立たとも廣ひろ敷し立たとも廣ひろ知ち立たともいひて敷しを知ちといふ同
く其その主みやの其その宮みやと知ち座ざと云いなり太ふも柱たのた事ことのみ
なりなび大おほきといふ稱な言ごなり其その宮みやの主みやより兼かて其その宮みやと
も祝ほむ物ものなり○高たか天あま原のとハ下さ津つ岩い根ねと云いふ對むへてな
高たかきといふ古ふる言ことなり○千ち木ぎハ上あ代しろの家や造づ小屋やの左
右みぎの端はに有あて其その本もとと前まへ後のちの軒のきよりして上のを棟むねとて

行い合あと組くみ違ちがへて其その末すえと長ながく上あへ出いりたる物ものといふ其その棟むねより
上あへ高たかく出いたる所ところと千ち木ぎとは云いなり今いま世よの神かみ社やしろに別べつに造つく
りて附つく物ものと上あ古いにしへの形かたちよりと殘のこせるなり○高たか知ちハ太ふ
千ち木ぎのことといふ小こなり主みやの其その宮みやと知ち座ざといふ上あの太ふ敷しと
同おなじ意いの稱な言ごなり

皇ス御ミ孫マ之ノ命ミコトノ乃ミ美ミ頭ヅ乃ノ御ミ舍アラカツカ仕ツリ奉ツ也

美ミ頭ヅハ物もののことなりとほめりといふ言こと○御ミ舍アラカツカハ御ミ殿テンなり

○仕奉るつかまつとはこゝハ造奉るつくまつといふ今俗言しやくごん仕つかまつといふ即チ
仕奉るつかまつと訛しもまめて其つらまはるも物と造ることつくもいふ
ら仕奉るもそれつかまつ同ト

天之御蔭日之御蔭止隱座アノミカゲノミカゲトカクリマシテ

天之御蔭日之御蔭ありのみかげひのみみかげと天あと覆たはひ日ひと覆たはふ蔭かげといふ義ことわりふ
て即チ御殿みどのといふなり家いへの内うちに居あまつみ天日あまひの直ただふ身みの中なからぬ
を以てかゞいかみななをを上代かみつよの雅言みやごんなり○隱かくりと加久理かくりと訓とむ也

隱かくりと御殿みどのの蔭かげに覆たはまれて其内うちよままままといふ

安國止平氣所知食武國中ヤスクニトクヒラケリシロシメサムクヌチニ

この國中くにうちハ總まて國中くにうちといふ上かみは水穗國みづほのくに乎安國止平氣やすくにやすくにたひらけま所知しり
食世止事めせとことよま依奉よまつ伎ぎと何なにもその天下あめつち四方よつたの國くにと此内こゝよよ

成出武天之益人等ナリイデムアソノマスヒトチガ

成出武なりいでむと生うままと出いづづなり○益人ますひとといふ即チ世中よのなかの人ひとといふ稱なを
人といふ物ものハ次第しだいよよ多おほくおほなりゆゆく物ものなれむ益人ますひとといふなり

或ハ國の乱たれふよりて戦たたかふ亡な或ハ疫病えびをど又もりくのまふ
かきゆく俄にせうふ多くうすく亡なる事ことなともあとも古ふるより永ながく
て見るときは漸やうくよ多くなりゆく○天之あまのとともて述たて藝命ぎのみこと
の天降あままり始はじ天あまより持来もつつる物と云ひ又天の物ものなり
てまも事ことよりるが廣ひろくなりて然さらぬ物ものも事こともたほそ
りふとて明あるなり此所こゝなるも即すなは然なり

アヤニチオカシケム
過犯家
年

も後のちの罪條の中つみぢのなかハかのづからなる穢けがれ又かのづから
る災わざなともあるそは過犯あやまちといひふへふざるよ似にたれども
らと然まかこゝく事ことを分わかていふべき所ところありざれむ姑あやく
過犯あやまちス罪つみふつさてもいふべく又かのづからなる穢けがれ災わざなとも
其身そのみハ過犯あやまちなるよありあらずとも他ほかよりりむむそれも同
トく過犯あやまちせる○家け年ねんハ過去おとぎ一ひと事ことといふ辭ことばを六月十二月
の大被おほのそは時迄ときハ過犯あやまちなるといふた

雑々罪事波

罪ハ都ニ美ナキ事ハつゝ事ニ猶此事下に○雜々ハ
種々みてやぐて次なる天罪國罪とまづ一つよ合せて云也

天津罪止

次なる七つの罪ハ須佐之男命の天つ御國よて犯し給ひ
一罪なる故よ此類の罪とバ後ハ此國人の犯せるとも天津
罪といふこと止ハ登豆といふ意なり

畔放

阿ハ田と田との間の界と一又水を貯ふる料なるを取放ち
て界とみどり水をも湛へるあぬ之阿を後世ハ畔脊といふ

溝埋

溝を遠く水と引て田よかけむ料なるを埋めて水と引置
よ一無かりとむむるころのいらづめの畧なり

植放

種ハ溝池などに構へて常ハ板りて塞て水となくとも置て
其水と田ハ引用ふべき時よかの板のせきとば放つ事なるま
水の用なき時ふまなちりりて田ハ水とあふともめ
且用ある時のたぐとも失りむるなり

頻蒔

神代紀ハ是と重播種子と書りまるとい重なる意に一度
種子とまざるなる上へ又重播てまるといふなり

串刺

神代紀ハ素盞為尊之田亦有三處号曰天穢田天川依
田天口鏡田此皆磽地兩則流之早則焦之とありまされ
をの尊ハ御田かある故ハ大御神の御田ともまらうの
むとて串と多く隠し刺て下まらうからうむるなり穢串
同ドこと泥中ハ穢串ハ多くある田ハおまたてバ足を害ふ
ありまらう

イキハギサカハギ
生剥逆剥

古事記不穿其服屋之頂逆剥天班馬剥而所墮入也
ある生剥とい生てある其皮を剥といふ逆剥も一ツ事なる
と重ねると生剥の逆剥と心得べし逆剥といはれて獸乃
皮ともぐハ尻の方よりさかさまに頸の方へ剥きてゆく
ゆゑよといふなり

クッハ
屎戸

かま借字之久曾閉と訓べし閉ハ閉理の理と省ける言なり
古事記は於聞者大嘗殿屎麻理散とある其麻理と閉理
と同一意なり是れいと須佐之男命の犯し給へるハ大嘗の
殿と穢し給へるふよりの罪なれむ此國ふしと人の上も
穢ましき所と此とぞとて穢きを罪とせざるなるべし
許々太久乃罪乎
許々太久と万葉に幾許と書し物の數れ多かるを許らば

して大よそありふ言をさしてさふあだくの罪といふハ大被乃
時よ求るに右の類の罪共と万民の犯したるが多くあるといふ
委くいさふ云々さだくの罪出武それとは天津罪止宣別豆と
いふ意なるぞ出武といふ言をさしてさふ省ける之國津罪の所
出武とあるに准へて心得ぬ

天津罪止法別彙

法ハ借字を宣別之大被の時ハ民どもの犯したる罪どもと
求めて多く出たる中に右の類の罪どもと別よしてささくハ
天津罪といひて分るといふそハ大被の事を行ふ者の言て別る
ゆゑ凡て人ふりひきかきると宣とといふこの天津罪も國津罪
も實ハ一つよて差別あるまじきことなれども凡須佐之男
命ハ被を負せたるが被の起るよてあまバかの神の天よて犯
給ひ一類の罪とむ此國ゆても天つ罪と名つけて別えなむと
さるゆゑふ國つ罪の方ハ此法別といふ詞を一心とつくべし

して大よそふり言こそとてふあだくの罪をいふ大被乃
時よ求るた右の類の罪共と万民の犯したるが多くあるをいふ
委くいふ云々くらだくの罪出武それとは天津罪止宣別豆と
いふ意なるを出武といふ言とていふ省ける之國津罪の所
出武とあるに准へて心得登一

天津罪止法別彙

法ハ借字まで宣別之大被の時ふ民どもの犯したる罪どもと
求めて多く出たる中に右の類の罪どもとて別よしていさくハ
天津罪をいひて分るといふを大被の事を行ふ者の言て別る
あて凡て人ふいひまかまると宣とていふ之の天津罪も國津罪
も實ハ一つまで差別あるまじきことなれども凡須佐之男
命ふ被と負せたるが被の起るとしてあまバかの神の天よて犯
給ひ一類の罪とて此國あても天つ罪と名つけて別えたるを
さるゆゑふ國つ罪の方ハ此法別といふ詞を一とていふ一

クニツツミトハ
國津罪ハ止

こは此國このりり言ことばなれ天あまの罪つみを別わかくとも國くにの罪つみを
いふまじきことなりなれども天あまの罪つみを別わかくよつめてそれこれは對むか
して其外の罪つみどもを國くにの罪つみと姑なほくりてあまの止とどめも天あまの罪つみの
方かたは止とどめとのみりひてこゝろかへりて先まづ天あまの罪つみを宣のり別わかて
さて國くにの罪つみをいふそれごとく云いふ

イキハダクシニシニハダクシ
生膚斷死膚斷

生人いけるもあれ死屍あたはねもあれ其膚そのはだも疵きずをつくる穢けがれを以て罪
とせむ之穢けがれを罪つみとせむこと次くはは委まかす云へ一人の身みを傷やふ
惡行あくぎやうの方かたを以て罪つみとせむよふ何なにれ其その疵きずを穢けがれとせむこ
されむ他たも疵きずをつくるものならん己たのが身みも疵きずをつくるも同おなじ
事ことなり又疵きずをつけたる者も人よつぎらむなる者も共ともに
穢けがれなるべし。斷たとは切きるといふ今の世よもいさくりまても
疵きずをつくるを手をきる足をきるなどいふなり必かならずしも切離きりまはつ

ことれをゆえありは

白人胡久美

白人と和名抄不白癩人面及身頸皮肉色變白云々者也

之良波太とある類其外世不白子といふ物などのたぐひと

いふべし。○胡久美ハ同書に瘰癧寄肉也瘰癧肉和名阿万之

之一云古久美とある是之阿万之ハ贅肉之又其次は拳た

る附贅懸疣なども同ト類へりて此類ハ共よきたなき物

なる故不穢と以て罪とするにさる類ハ世の人も惡くまよしとす

神ハふらときたなみ給ふに○さて被よりて白人胡久美の類

の直るぬありざれども被物と出へて被へむその穢の清

まるたのり

已母犯罪已子犯罪

古事記仲哀天皇御段大被の所不上通下通婚とある是

なりさてた母た子といふ事して二つ共よ已とといふハ次の

母與子犯罪云々の母子とは同ドからなることと顯あせざるこ
○犯たがまつゝみて爲すまじきつゞなることつゝ一ままじきこと
女あよ婚あも其倫常まだまり不違たがへると犯たがといふなり

ハ、トコトオカセルツミ
母與子犯罪

先まづ一人の女あよ娶あひて又其女のさ兒あひは他人あひよ嫁うて生うむる女子あ
もとも後たか不犯たかま之母あひとい其女あひよ對あひへていひ子あひとい其母あひよ對あひ
ていへるめて已たのが母あひ已たのが子あひあり上條かみのくさうよ已たのといへるめて

是これハ已たのが母あひありていへることありは之これ○とて其母あひよまれ子あひに
まれ一方あひよ娶あひハ常あひなると母あひと子あひとつらぬて娶あひを犯たかしなる

コトハ、トオカセルツミ
子與母犯罪

こは一人の女あひよ娶あひて後たか不犯たか又其女の母あひも新たかる之上あひなるとハ上下
のたゞひ之上あひなると先母まづ不娶あひるハ犯たかまをありずして後たかよ其
子あひもつらぬて新たかるが犯たかしと先子まづ不娶あひるハ犯たかまあり
して後たかよ其母あひも新たかるが犯たかしと此二條このふたつハたゞ母あひと子あひと

先後のたゞひのとなれを合せて母與子犯とのこといひても有
べきとかく分てしるる古文のあやまて母と子とを下と上と
をさかしたるのみよて其事の二つよく分れて聞ゆるハ後の
世の人の及まざる文ことつづくべし

畜犯罪

畜と氣母能と訓べし神代卷よ畜産とあるをけりものと訓
み獸とあるとけりものと訓ると正しとすべしけりハ飼物

の加比を約めて伎なると氣とける之伎と氣とハ殊は親
て常に通ふ音之依て六畜よとけりれといひ獸よとけりもの
といふなり混ふべからず○さて此犯も上代より有なるべし
中昔の書みも見えしなり

昆虫乃災

昆虫といハ虫いとも物なる故ふまてて虫と然云之鳥と飛鳥
と云ひ雨とふる雨花とさく花といふ類と同トことなり

○虫の災ハキヤウシとハ書紀神代卷キヤウシハ昆虫キヤウシの災異ハキヤウシと禁厭キヤウシといふ事見
え大殿祭詞ハキヤウシもも虫の禍ハキヤウシなくと見え十種の神寶の中
小蛇ハキヤウシ比礼ハキヤウシ蜂ハキヤウシ比礼ハキヤウシなどのあるもそれを拂ハキヤウシさむ料ハキヤウシ之上代ハキヤウシも
民ハキヤウシのきみり野山ハキヤウシよまどハキヤウシりそめなるかまハキヤウシなりハキヤウシく
虫の害ハキヤウシ多かりハキヤウシなるべハキヤウシ今ハキヤウシの世ハキヤウシてもハキヤウシ蝮ハキヤウシ蜈蚣ハキヤウシ蜂ハキヤウシなどよ
さハキヤウシしてハキヤウシ悩ハキヤウシむ事ハキヤウシ無ハキヤウシきハキヤウシよハキヤウシまハキヤウシあハキヤウシるハキヤウシべハキヤウシ

○さて是より三條ハ災ハキヤウシと以てハキヤウシ罪ハキヤウシとハキヤウシするハキヤウシ之ハキヤウシ其ハキヤウシよハキヤウシハ下ハキヤウシにハキヤウシ云ハキヤウシべハキヤウシ

世ハキヤウシの物ハキヤウシあり人ハキヤウシたれも皆ハキヤウシ罪ハキヤウシの事ハキヤウシふハキヤウシなハキヤウシらハキヤウシみハキヤウシてハキヤウシ都ハキヤウシ美ハキヤウシといハキヤウシふハキヤウシこと
たハキヤウシをハキヤウシ惡ハキヤウシ行ハキヤウシとハキヤウシのハキヤウシ心ハキヤウシ得ハキヤウシるハキヤウシかハキヤウシりハキヤウシ此ハキヤウシ罪ハキヤウシのハキヤウシ條ハキヤウシのハキヤウシ中ハキヤウシにハキヤウシ解ハキヤウシ得ハキヤウシがハキヤウシとハキヤウシ死ハキヤウシ事ハキヤウシ
共ハキヤウシありてハキヤウシくハキヤウシさハキヤウシぐハキヤウシのハキヤウシ強ハキヤウシ説ハキヤウシのハキヤウシ出ハキヤウシ來ハキヤウシるハキヤウシなり

高津神乃災タカツカミノノサハヒ

高ハキヤウシとハキヤウシもハキヤウシ空ハキヤウシといハキヤウシふハキヤウシ古ハキヤウシ事ハキヤウシ記ハキヤウシハ高ハキヤウシ往ハキヤウシ嶋ハキヤウシ高ハキヤウシ行ハキヤウシやハキヤウシ隼ハキヤウシなどハキヤウシいハキヤウシふハキヤウシもハキヤウシとハキヤウシら
ゆハキヤウシくハキヤウシとハキヤウシらハキヤウシいハキヤウシふハキヤウシことハキヤウシ也ハキヤウシ此ハキヤウシ高ハキヤウシとハキヤウシ同ハキヤウシトハキヤウシ次ハキヤウシなるハキヤウシ高ハキヤウシ津ハキヤウシ嶋ハキヤウシの高ハキヤウシ
同ハキヤウシトハキヤウシさてハキヤウシ高ハキヤウシ津ハキヤウシ神ハキヤウシとハキヤウシハ雷ハキヤウシといハキヤウシふハキヤウシなるハキヤウシべハキヤウシ又ハキヤウシ世俗ハキヤウシよハキヤウシ天ハキヤウシ狗ハキヤウシといハキヤウシふ

物工ともなむとも高津神の災といふ一虚空と飛びあつく
ものなるも此條もこれらに災ふあふと罪とまゐるなり

高津鳥乃災

高津鳥たかつとりの右ふりる如く空飛鳥そらとびといふ意よてたゞ鳥の事

さて此災ハ大殿祭詞ハ天乃血垂飛鳥乃禍無久とある即チ

是より血垂ハ古事記上巻ハ登陀流とあるあてをハ上代の人

の家いへの竈處いへ以上の煙けむりと出さる處の名なとされハ其上そのうへと飛渡とびわたる

諸の鳥しよのとりは毒どくなどある糞ふん又さうりむも毒物どくぶつなど昨来けつらいて竈

の上のうへへ落おちき事ことなどつりて其毒そのどくふあはるたゞハ高津

鳥とりの災わざいなり

畜仆志

畜けものなとの死ぬると多布流たふりゅうといふ斃たふ殪し殪しなどの字と書里

多布志たふしハ令斃たふして殺ころせりといふことなり

ぬと思ふ上代人の家かみハ養やうへる牛馬うまなど忽たちち斃たふせり

おむる術こぎなど有りてかたむひ一軍有りけんそ其主を恨うらみ

きどある事など有りて仇あだをふたふたなりされどこハ次此

盗物まどものと同ト類の罪をきま一上代よと書かきとも重くせ一なり

盗物為罪こじモノセルツミ

字鏡まどもの不盗万自物と有りまどなひ物の意よそ人とのりひ

誼まごふとて構かまふるこさこ中昔の書なかせりともよも此まど一とびの事なり

より見えたり上代より有一軍なるべ一まどもの罪をいふ事

しちのちあいたまう物ものの罪とのこまへ八人おまう物
せられたるも災あはれまて罪なるにまうがゆゑなり

さて畜什志けものたふといれと一類ありて此二つハ上なる野たふの類とハ罪の

さよ異ことなるゆゑよ中間なかまはひに災の類ハ罪とていふことあはれも擧

たるなり

許々太久乃罪出武ココダククノツミイデム

ことよまもいへる如ごとく罪の條目の多きとありふまことあへ大被の

時國民共の犯くたひたるが多く出むいたりて出武いなる古事記に

種々求とある如く大被を行もんとしてまづ國人どもの犯
たる罪を探り求るまづに多くの罪共の顯され出来んと
いふ之今の俗言に吟味されど古人も心直かりしは身ふ犯しある
者ハ問段と出てくることられバ大く隠さずして顯し申しけむ然顯
し申して被物を出して大被ふあへど其罪ハ除り清まり
しこと上代の被れまことの趣之然るとや後よなりてハ犯
の有無と問ありたりこととなつたがかりかへて各皆被物と出させて

其中に犯しある者もそれめて清まりし又いよく後よ至
りてハ然被物とかのく出さず事もやぬと見えたりそのま
後びのかたむりにむりなり

○上件國つ罪どもの條中昔よりこなつ世との物ありん
古のころころことばと得ざるゆゑよあゝぬまぢと解たぐ
ことのか不し故今其つ二つとらまへんまづ罪とりま
都々美の約り言よて都美といふ之都美ハひと人

悪行のみまかぎり病諸の禍又穢きこと醜きことなり其

外もさきて世み人のまかりてやむまらり事ハみな都美

萬葉の歌よ人の身はらふ諸のまらり事のかまらひなり

まもいむこと好くまもいまはばなるなり今の世の俗言ハ無事よク無難いといふことなり

即都美なること又さまなり事とは

かまてえせざえすぬといふもよもよもよも是も然

されどもなり事なり事なり事なり事なり事なり事なり

同く都美なり但しこれハ轉リたる本の意ハ本ハの事のみありて出づるは本末ナリ

此祝詞ふあげられたる條も罪字よいかする

まことなるにせし物なりたれ此字にのみたつて都美

て言の本此意と考へむすら悪行との心得るから

解得ざることも多くてさぐ強たることありあへるなり

○さて右のごとくなれむ此國津罪の條と生層断より胡久美

までハ穢と以て罪とまらるこ已母犯より五條も軒之昆虫乃災

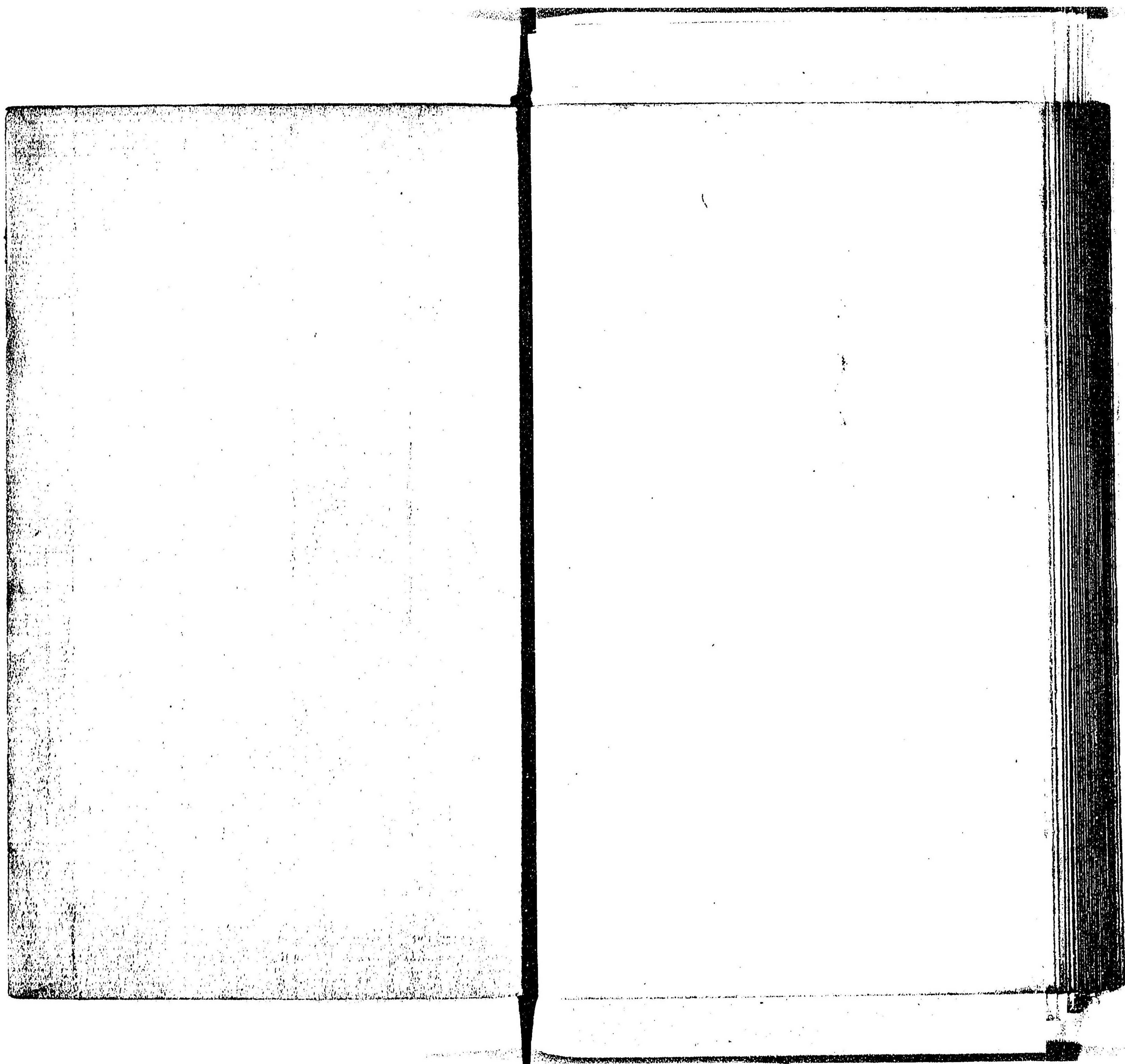
より三條ハ災わざはひはあふと以て罪をさるる之末二條ハ惡行之かくの
 如く類るいを分て次第あやふ舉たりさてかく四種よしゆある中に被あひれ
 要あやす惡行あくこうと主おもとせじ穢けがれとりて第一の罪をすそもく
 惡行の罪を舉むる猶外たがふ重き罪もあまら有あり事なるに
 りづうふ十條あまりの中に軒たきの類はうりと五つ舉ぐあ古事記仲
段は見えざるおも圖つ罪五條と奉たるみな軒のみなりそハ軒の類も人も人の妻つまと犯たか一たりむな
 ごと殊ことは重き罪なるべしとんとと舉ざるを以て思ふもかふ

かくに惡行のうこととるにとらざるもや又畜ちく什じ盡物じんぶつハま
 しく惡行とことつと聞ゆととあれと別ほかは故あるも又
 人を傷きずふ罪も猶外たがふもさぐ重き有べきに殊ことに畜ちく什じ盡物じんぶつ
 をしも舉たるもゆゑあるべしと上件かみくだりのおもむらむもと以て
 つらうかむかひ考るにまづ上代かみつよともうか此罪と治る刑と被あひと有
 べき刑つみかべき罪と被あひと負おすべき罪との異あはけむ此事につきて尚後釋は
ゆふれたる事もあれどそまはしつ然さもば此大被あひは舉ありれらる條目じょうもくの諸もろの罪は

中にて刑^{つみ}之^を罪^をとありて必^{かならず}被^{はら}清^{はら}むべき罪^をのちかへくをせり
 もむり一然るにやせざるまことに刑^{けい}のかこまげくなりて被^まと
 負^おはることは漸^{やがて}よすくなくぬりよとゆいて中^{なか}昔^{むかし}よ至^{いた}りてと
 被^{はら}の法^りもたは神^{かみ}事^{こと}に預^{あづか}るることたのし用^{もち}ひられ又^{また}いふに世
 なるりてハその神^{かみ}事^{こと}よすり被^おと負^おはるる法^りハ絶^たたるなり
 ○さて大^{おほ}被^{はら}よはらひ清^{きよ}むべき罪^{つみ}も猶^{なほ}數^{かず}多く種^{いさ}々^くあるべき中に
 これよしたる十^{じゅう}條^{じょう}あまりと擧^あげて餘^{あま}と此^{こゝ}内^{うち}ふりたる物^{もの}なり
 必^{かならず}に限^{かぎ}るるごとと思^{おも}はる古文^{こぶん}の例^{れい}とありざる物^{もの}之^の但^{ただ}一

中昔とぬりてハ此^{こゝ}被^{はら}の詞^{ことば}不出^いたる條^{じょう}々の罪^{つみ}と主^まとして神^{かみ}事^{こと}
 ありて忌^いたる趣^{おも}延^の曆^{れき}の大^{おほ}神^{かみ}宮^{みや}儀^ぎ式^{しき}帳^{ちやう}ふ出^いたる文^{ぶん}と以^もてある
 一

神道大被詞畧注上卷了



神道
大被詞畧注

下

東京圖書

二	五	一七		
冊	号	架	函	屬類

下

神道 大被詞畧注下卷

權大教正本居豐穎閣

權少講義坂田安治撰

如此出波天津宮事以是

如此出波ハ前の許々太久乃眾出武とらけなる言よそその

多くの眾れ出たる上まこといなるなり。○天津宮事とハ高天原

なる天照大御神の朝廷よりて行まをたまふ儀式ふなりひて

そのごとく行ひ給ふ事といふ 凡て此御國より皇御孫命の朝廷の儀式も
何も皆かの天上の朝廷のよなりひて行せ給ひ

ことなり此祝詞に天津菅曾天津祝詞などあるもかくる
くさぐさの物も天津宮まで用ひらる物にかたしあるなり

オホナカトミ

大中臣

あまつこやねのみこま 天津見屋命より始めて神事と掌る宦の名よて中取臣なかとりたみ

ふいふを約めて奈加登美といふこれ神と君との中と取て宣く

よをいふ申請よりこさて大中臣といふをまへて天皇の大御事にかると

おほなかに大某といふ例なり

天津金木乎

あまつ天津の事は前ふけるごとく金ハ借字よて細き木ほその枝

と古言に加那紀といふなり其細き木の本末もとすえと切たるを

あつ集めて中と結ひて物の置座とするこ

モトウチキリスエウチタチテ

木打切末打断

もとすえ本末とむ切捨て中らのよき所と物の置座とまるとり切も

たち断も同トことなるを言をぬていふと詞の文こと

チクランノオキクランニオキタラハシテ
千座置座尔置足波志

置座ホキくらと人との出まらへつものたる被物とりあつと取集めて居置すゑたくだい基たいなりきをも

右みぎの加奈伎かなぎとあみなり編つくろて机つくろなどのごとく造つくりたる物なるべし

千座ちくらとも置座ホキくらの數かずの多おほきといふ○置足ホキたらはし波志はしとハ被物まらへつものを

置満ホキみつるといふなり被物まらへつものと置おきといふなりと然聞まかきこゆるハ古文こぶん之

アミツスガソヲ
天津管曾乎

管すがハ笠かさふもさる管すが之此物このものと被おほ小用こようひしことハ万葉集まんやふしふなど

ふも多く見えて古いにしへの被おほり割わたる管すがと手に取持とりもちて塵ちりたると

拂さらふが如ごときとさとせしものと思おもはる須宜すが須賀すがといふ名なと此草このくさ

もとより清淨きよよきより有あて負おほるうさる故ゆゑに被おほふも用もちるまゝ又ハ

清すがと言ことばの通とほふ故ゆゑといづれふまれ清すがき意こころよ取とりて用もちる之その管すが曾その

曾そと佐手さての約つまりたるよそ緒むすなる物ものを何なにふまれいふ名な之その佐手さて真ま緒むすにその通とほひす

真緒まむすの
ことなり

モトカリタチスエカリキリテ
本苧斷末刈切氏

かなまき ことば かな むか
金木と言を對へていり

ヤハリニトリサキテ
八針取辟氏

ハも弥いと約つめする言針ハ借字こぼりもて張はりの意なるべし張はりと茂まげく生たひ

たるといひて又轉うつじてと其葉ひとまた一條二條と一張二張ひとよりなどいひ

なるべし書紀天武卷あまひらたよりは麻一條とあるも多たハ添そひたとも同

ト張はりなるべし管すげの葉はと細ほそく數條やすぢ小割さくなり

アツノリトノフトノリトゴトヲノレ
天津祝詞乃太祝詞事乎宣礼

能理斗のり基登きとハ宣說言のり之能流のりといふ言ハ廣ひろくして上かみへ申まをす

ふも下したへいひ聞きをふもつつふ言ことなるを詔字宣字みことばなどいしあり

下したへいひ聞きを方かたよつつて當あたたる物もの之これ凡すべて皇國言みくにことばと漢字かうもじと全また

く合あひあはるとかこの合あひあはる所ところよつつて當あたたる多おほし必かならず詔宣みことばな

どの字あのまみ泥ぬむむべしべ万葉まんやふに告つ字じとも謂い字じとも能流のり

と用もちひたると思おもふべし斗と久くも同おなじことよて上かみへ申まをすも下したへい

聞きをふも用もちふる言ことかての事ことごとハ神かみよ申まをすを詞ことばなり

省たきて能理登のりとのみも云ふ○天津あまつハ天津かなき金木あまつ天津つ管曾すが

なまどの例のごとく○太ふとまめでたまたまと美祢ほめの詞ことばハ詞ことばの

うるまきとめで給たまふとぬる故すべ小凡のりて祝詞のり詞ことばを美麗うるまく

つる物なれむとりのりとことごとく○さてこふりる太祝ふとりの

詞事ことばハ即すなはちこの大被詞おほひを措させるなり

如此かく久く乃の良波ら天津神あまつ波は天磐門あまの乎は押披おし氏うぢ天之八重あまの

雲乎ぐも伊頭いづ乃の千別ち尔に千別ち氏うぢ所聞食武しよんじくぶ

天磐門あまのハたゞ天津神あまののまゝ一ひと箇ます殿みの門かど之の磐いとひハ上かみ文ふみなる

天磐座あまのの類いて堅固かたきまゝの祝言いとしごと之の御門神みかどのの御名いを石真いはま

門かどと申まも此意こゝろ之の伊頭いづの千別ち尔に云いハ下しもなる伊穂理いほり乎や

搔別かきわけと同おなト心こゝろなるなり○所聞食武しよんじくぶハ宣申のりまをすこの祝詞

ときこめーのむといふ之

國津神くに波は高山たかね之末の短山みづ之末の尔に上坐かみ氏うぢ

短山みづ之末の字なのままに美自み加夜麻かやと訓よむべーとて其例そのどもを

下なるも同ト

如此所聞食波氏カクキコシノシテバ

氏波ては而有者てありはの意はよて波は濁音にぐるこゑ之下はなるも皆同ト波はと清あは

とさハ而者てはの意はよて別わかなり一字いちじの清濁あはれもなりても意ハ違ふ

ゆはなれを心こゝろよきなり

皇御孫之命スノミマノミコトノミカドヲハジメテ乃朝廷乎始ミ氏

朝廷ていていと美加度みかどと訓なべ一いっまの朝廷ていとよめ次つぎは天下四方國あめのうへたよものくにと

とよは始はつめ米氏いねのとい言い之美加度みかどとい名なハ本もとは太宮たいみやの御門みかどより

出いたることなれども一いっハ朝廷ていとさせるなり後のち天あま帝みかどとも訓なたり

天下四方國あめのうへたよものくに波は罪つみ止と云い布ふ罪つみ波は不在な止と

罪つみ止と云い布ふ罪つみ波はと罪つみといふかぎりの罪つみと一つものころを悉ことごとく

といふ意い之の不在なハ皆みな消失しやうしつてのころありありなり

科戸之風シナトノカゼノ乃

書紀い不な伊弉諾尊いざなぎのみこと曰い我所生わがうめり之國くに唯有あま朝霧あさぎり而のみ薰滿かどり之哉みてるかもどのりたまひて

乃吹撥之氣化爲神號曰級長戸迎命亦曰級長津彦命是

風神也とありて科戸の神の風といふごとく

天之八重雲乎吹放事之如久朝之御霧夕之御霧乎朝風

夕風乃吹掃事之如久

御霧も真霧もてさ霧といふと同トさ夜さ夜さ延などのさ

みな真と同ト○朝風夕風ハ何さくせゆふと訓べー之の字

のなきも其故なり

大津邊 居大船乎舳解放艦解放氏

大津邊に不つ屋と訓べー大津ハ多くの船に泊る湊なり居ま

泊る居るといふ○舳解放云々とも泊居たるほどハ舳艦と繫

ぎかきたるを解放つなり

大海原 尔押放事之如久

大海乃原ハ廣き海の上といふ○押放ハかーまをち出せなり

一説小大綿津見神とある御名によりて大海原ハた不つとこれ

はりと訓よむ方はらならむといへるも宣のたまふといふとくなむといふといふ
らみのたらい方はら穂ほたるべー

ヲチカケノシゲキガモトヲ
彼方をちかた之ノ繫シゲキ木ガ本モト乎

彼方をちかたハ俗言をちかたふのちかたのこといふことと之ノ凡すまてをちかたハありこちと
いふことといふことも彼此かれこれの意いちたると遠近と書くハ末ハ之ノさてあらた
彼方をちかた之ノといへるハただ打見渡うたるところといひてあらたのこといふ

ことといふハ繫シゲキ木ガ本モトめて事たまるとかいりいふハ古語の文あらわるを

○繫シゲキ木ガ本モトハ末ハにむかへていふ本モトといふハ異ことふハただ本モト立た

といふハ木ノ數かずといふハ本モトといふハも是こゝなり

ヤキカマノトカマモテウチハラフコトノゴトク
焼鎌ヤキカマ乃ハ敏鎌シゲキ以も氏ウヂ打掃事ウチハラフコト之ノ如ごと久ク

焼鎌ヤキカマといふハ焼やきて又といふハ故ゆゑといふハ俗かたなハ刀ヤキバの焼やき又またといふハ同ことド○

敏シゲキハ利トきト砥ト石トありハばさて物モノのたとといふハ後世のただ云々の

如ごとくといふハといふハ舉あげるたと四よつの譬たとひな云々の事こと比ごとくといふハ事こと

之のといふハといふハ添そへていふことと古語の例たとひなかくて大おほくハ同ことドさまならず

たとひ四つまで重ねて擧たることは被^{まらひ}よりて罪穢^{つみけがれ}の除^{のぞ}こり
清^{きよ}まること^まれ速^{すみ}やう^に遺^{のこ}りぬ事^{こと}とたりか^あ願^{ねが}はさん^た見^みふ
かへきぐい^るなるべ

ノコルツミハアラジト
遺罪^{いざい}波^な不在^{ふざい}止

遺^いと能^の許^こ流^りと訓^とべし上^うは罪^{つみ}止^と云^い罪^{つみ}波^な不在^{ふざい}といひ又^{また}こゝに
遺^い罪^{つみ}波^な不在^{ふざい}といふ^{こと}言^{ことば}重^{かさ}なる^が如^{ごと}く^なれど^かく

いふが古語の例なり

ハラヒタマヒキヨノタマフコトヲ
被^ま給^{たま}比^ひ清^{きよ}給^{たま}事^{こと}乎^や

事^{こと}乎^やの事^{こと}ハ諸^{しよ}人^{にん}の犯^{とが}たる罪^{つみ}事^{こと}とさしていふ^{こと}之^{これ}常^{つね}に^か輕^{かろ}
く添^{そへ}ていふ事^{こと}ま^あら^ず

タカヤマノスエヒキヤマノスエヨリ
高^{たか}山^{やま}之^の末^{すえ}短^{たか}山^{やま}之^の末^{すえ}與^り

こと上の條を心得べし

サクナダリニ
佐^さ久^く那^な太^た理^り尔^に

廣^{ひろ}瀬^せ祭^{まつり}祝^{いのち}詞^{ことば}ふ山^{やま}々^々乃^な自^{みづか}口^{くち}狭^{せま}久^く那^な多^た利^り尔^に下^{くだ}賜^{たま}水^{みづ}乎^やと何^{なに}り

佐ハ例の真ま中まで真下まくだり垂た之の夕ゆふとナと通ふ例多一川水の山より
落たるさまととり

オキタギツハヤカハノ能瀬坐須
落多支都速川能瀬坐須

支字ハ岐字の偏へんと省さぶける物之偏と省さぶきて書る例古書ハ
多一さて此支まの下に普通の本もと都字落たり一多支たぎ
都つといとでハ下へ語ことばつゞくとして後釋あきらふ補たまはれとるごとく一多支
都つと俗たぎ不ふ沸ふといふ是なり速川と水の流ながの急きなる山川の狀さま
なりさて此とさう文ことばいとめでたくまことにいさださきとちを

セオリツヒモノトイフカミ
瀬織津比咩止云神

此神の御名瀬織の織ハもとより借字かふて瀬下せたりなり古事記な
る伊邪那岐命いざなぎのみことの御楔みせの段かふ於中瀬降なかつせむたり迦豆かづき伎かたまふとある
意の御名なりかくて此神かみとぬまち禍津日神まがつひのかみ之倭姫命やまとひめのみこと世記
よ荒祭宮一座皇大神荒魂伊弉那伎大神所生神名八十
枉津日神也一名瀬織津比咩神是也といり禍津日神と

瀬織津姫セオリツヒメと申さしかのまづめて中つ瀬なかつせは降ホリかづき給ふ時

又生あれ坐ませる故ゆゑみてこゝふよくかななりりさしてこゝも被物はうつものは負おせて

流ながしやどたる罪穢つみけがれと先受取まづたまふ神かみなれむかの中瀬なかつせは下たり

てよみの國くには穢まづと先滌まづぎはよめ給たまへるよよく當あたまりをもく

禍津日神マガヒノカミは世よの中の凶事まがことと生なし行なふ神かみなるに是こゝも罪穢

をまらひ滅ほろはと始はじめなるまば生なると滅ほろはると表裏うらうらの違ちがひなるが

如ごとくなまともこれぞ被かの主意こゝろよて深こゝろま理ことわりある事ことなる

そままづ被かを行なひて罪穢つみけがれと清きよめ流ながまはよみの國くには穢

より起たまる禍津日マガヒの凶事まがことと又また本もとのよみの國くにへ返かへしやる

あまごめてそれをまづ此神こゝろの大海原おほうみは持出もちだ給たまひてさて

此次こゝろ小見こゝろえたる如ごとく次第ついでまたりやまて終つひは根國ねのくにに至いたる

まこれ罪穢つみけがれの其本もとにかへるなれむ此神こゝろの生なし行なひ給たまへる

凶事まがことと又また此神こゝろの受取うけとりて本もとへうへ給たまふよそ表裏うらうらのた

かひの如ごとくなるま同事おなごとの来くると往ゆくものまがらめよぞ何なにり

あることよく味ひて被のことりの深く妙なることとさ
る塵一

大海原尔持出武

上文小被給比清給事乎とあるその罪事と此神の澳へ
もち出たまふなり

如此持出往波荒鹽之鹽乃八百道乃八鹽道之鹽乃八百

會尔座須

大海のよるる澳は潮道といふなりて瀧よりも疾て東へ
のゝ流るといふ荒とハ荒山荒野なども同ドク世をなれて
生たがらある物といふあり○塩も借字みて潮なり○ハ
百道とよその潮道の多くあるといふ○ハ塩道も上の塩は
百道とらけ重ねていへるよそ八百塩道といふは同ドクさなり
○八百會とよ八百の塩道の集り會所といふ方々の潮道
より流る来る潮の二つ所は集會て海の底へ巻没る所なり

さてこれ文うく同ドさまなることを重ねつづけて長く
ける殊ことめめでたく上つ代の文よてさらは後世人のかけても
及ぶぬさまめていもく雅みやびたりこもらとよく味あぢいひて古文
のみやびやうなるをどとさるるべし

速ハヤ開アキ都比ツヒ咩ヒノ止トイ云フ神カミ

こはかの御み禊そぎ段あは生あれ座ませる伊豆能賣神いづのめのかみ之その伊豆ハ阿伎
豆づの切きまりたる御名よて即すなはちの速秋津日子神速秋津日はやあきつひこのかみ

女神めのかみと同神どうじん之秋ハ借字よて明あきづの意よて明あきとも御み禊そぎふよりて

清きよりかよ清きよまりたるよの御名之猶委なほき事ハ古事記傳五
の卷六の卷よあると見るべしさて速秋津日子日女二柱神ハ

古事記ふること記ふ水戸神みづとのかみとあるところ小塩こしほの八百會やほあひは座ますといふは
所たがひもども是は深きよのありそと潮しほ之八百會やほあひハ此顯このうら

世よの海上の堺よて根國の方へ潮しほの没いり往ゆく門口ぐちなればこれ又彼方かた
の水戸みなとなり常つねにいふ水戸みづとを川より海へ水の出る口之塩しほの八百

會ハ海より入て根の國此方へ水の出る口なれむ此方よそ川より
出る所と彼方へ出る所との差こそ何れも共よ同どく水戸なる
古傳の趣れ妙なることかくのごとくよましく味ふべし

持可可吞武モチカカノミテハ

持ハ軽く添たる言可とも水と吞音之俗言ふも物と吞物と
かむ音をがぶくとのむかりくとかむなごひみぐごう〇さて被
物と潮とも海の底へまきいりて實は此神の吞給ふなり

然ると漢籍のいさゆる寓言のごとく心得せよやまことたま
まひよあらびそま例のなまやうきから心こそさて然吞給ひて
頭國の衆穢の除り清まるこれ伊豆能賣神よ正しく當り

如此久可可吞波氣吹戸坐須カクカカノミテハイブキトニマス

氣吹戸の戸も處之處と斗と云例多しさて氣吹戸主神の諸
の衆穢といふき放ちやと給ふ所のくごりを廣く氣吹處とハ
しるよそまめ被つ物と川よ流し棄る所よりして終る

根國小至るまでの間あひだはむろくもする名なに坐まとるハ氣吹戸と

いふ所の二つあるごと聞ゆまども然らむた上かみの二つの例のま

よ坐まとるよと別に然し云ふ所のあるまもあらむ

イブキドヌシトイフカミ
氣吹戸主止云神

此神ハ倭姫命世記たかの多賀宮一座豊受荒魂也伊弉那伎神いぎなぎのかみの

所生神名伊吹戸主亦名曰神直日大直日神かむなほびたほなわびのかみと見えたり多賀

宮ハ伊勢外宮の別宮高宮たかのみや之是と豊受荒魂といるハ心得ぬと

伊吹戸主と直毘神のちのよのみとといるハ後世人ハさうりに思ひいもまどた事

なまバいと必古き傳説なるべまに正ましくかなひていとたふ

と一〇いそもく被かりて罪穢のぞの除きより清きよまる次第たのめ初せは瀬織津

姫早川ひめの瀬せより大海原もみを持出もちい給たまひ次つハ大海原うみを經へて塩しほのハ

百會ひゃくあひまで至いたるハ此氣吹戸主神こののいづきはな放はなちておりや里給

ふよて次つぎハ速開津姫すみひらの吞給のふ之然しかるに氣吹戸主かみと瀬織津姫せの

次つぎハいさざるハ後のちにさかるいふ故ゆゑ小畧こりやくけるものなり上かみ又また持出もちい奈

武といひて次よと如此持出往波と往といふ言を加へてしるに

心ぞつくべし瀬織津姫の事ハ持出るまでなる故よそこより往と

いまだ往るハ持出たるうへの事よそ大海原と經て往るよそ此

一言ハ氣吹戸主の御志よごの此間ふも何ることと思はせける

上つ代の文妙ことも妙にならざりに見過さばきふあらばさて其事

とそこよといふべしとてさふ云る故ハ伊豆能賣の吞給ひてきて

その塩の八百會より又根國までかろやるとなまふも同く此

直鬼神の御志よごなる故よこつたりのひてかこしよもかぬなりそハ

此神ハまて萬の凶事と直し清め給ふ御靈の神よ坐せむ廣く

いふ時ハ早川の瀬小流を出るより根國よ到りてさくらひ失る

まで始め終りまて此神の御靈よ何らざることなけむむなり

根國底之國尔氣吹放武

根國底之國も即黄泉國こそもく世の中此凶事ハ皆もと黄泉

國より起り来る事なると被禊とその罪穢の凶事と本の黄

泉の國へくくやる志りござりて此被禊する事を天津神國津神
の聞食一納るとば此段の神たち其被ひきてたる罪穢の凶事
と次第によみの國へかろりくくくやと給ひて世中の罪穢除り清
まりて凶事無きこれぞ被禊の旨趣なりやる○氣吹息以て吹
くなり放まはなちやる○さて速開津比咩よの香といひ此神は
氣吹放といへるも實は此異ありかの香給ふ八頭國の罪穢の除
りたるなれむ吞没失ふ之此氣吹放ちたまふ既小根の國此方
移りたると受て根國までやり給ふなれむ其物を御息りて吹やり
給ふ之此二つ此心む直毘神と伊豆能賣神とふよくあつても
さて上よりくるごころはじめの川瀬に流し棄るより終り根の國よ
至りてさきよりひ失ふまでと一つふ合せていふとさきハみなこれ山と
吉に直を直毘神の御靈なれむ此氣吹放といふことも同トク
始終小くくりて被禊する所よりとめて根國までさきよりひ失
なふ所まですべて氣吹戸ゆく其間の事ハみな此神のいぶき

まなち給ふるぞ有ける

如此久氣吹放瀝根國底之國カクイブキハナナテバネノクニソコノクニニマスハヤサスラヒメトイフカミ尔坐速佐須良比咩止云神

佐須良比咩サスラヒメまなちらひむめ之比ヒといふ同音トコナヘの二つ重なる故よ

一つ省ハぶきて唱ふる古言の例なり旅人たびひとと多毘登たびとといひ留とどまると登と

麻流まともいふが如く此神カミハ古事記コトヅキ須佐之男スサノヲ大神オホカミの御女ミメ須

勢理毘賣命セリビメノミコトと申ウて黄泉國ヨミのくに小坐神オホカミおまマは是之須スと

佐勢サセと須通スふ音ネよヨて良比ラヒと理リと切ツマまばさまらひヒとすせりと御名

通へト平田翁ヘイデンの説ハ異なり今ハ後叙ノチの説トよヨるト也

持佐須良比失モチサスラヒヒテム牟ム

まなちらひらひらハなふハ行方ゆくへもまらまらマばなナして亡なむムひ給たまふル流

離ハなどの字ジを訓よむ其意コト之ノ○此佐須良比咩このサスラヒメと須勢理毘賣スセリビメよヨて

其神カミハ被カよヨもモ由縁よゑんななままがが如ごとくくななままととももこれこれは深ふかさ故ゆゑもも一ひとある

事コト之ノままままづづ氣吹いぶき戸主とぬしの根國ねくによよいいづづきき放はなちち給たまふルままででよよて被カの

事コトハ竟まてま此比咩神このヒメカミのままままららひひ失なむムひひたまたまふルハその被カの驗あかしと立たて

給ふ御志みこころなり故ゆゑこの四柱の神かみ此中に此神のみみハハ此伊邪那
岐大神の御禊みそぎ小生坐たうりまる神かみありばして其禊の驗あきは生坐たうりまる貴御うぢのみ
子須佐之男大神こすさのたはがみの御女みおんなこれ又深ふかき理ことわりなりけりをさてますと足た
其御父須佐之男大神又被そのみちよりて罪穢清つひらまりて世よ大功たごを
立給たひ其御末大國主神みこすとめをばく八十神の禍事まがことに遇あひた
まひしと根國ねくにみますり坐まして此須勢理毘賣命みめのみまよ娶坐めま此比賣
神の御みよりらひによりて顯國くわくにみますと世よたらひなき大功たごと立
たまる是此ひめ神かみ此人民の罪穢つひらとままらひ失ひたまひて福さちを
得えると事ことのおもむき運うび全く同おなじと思おもふべー大國主神おほくにのみかみ也
此この神かみと共ともに御禊みそぎに生坐なまる須佐之男大神の御後みうぢよりして
夫婦めをとなりて此功このたごと立給たへる事こと又深ふかきこととままらひ有べーやとて
ままて世中の凶事まがことハ其そのすとめのよみの國くにより起たると此大國主神
の禍事まがことによりて黄泉國よみのくには至いたりまさるハそのままが事ことの初はつめのよみの
國くには還かへりますふて被さらひの趣おもと同じとままらひてそれをまませりひめの命いのちのまま

らひりーなひて功イサヒをたてーめ給へるこれらの次第イサヒまづめかお

黄泉段御禊段より大國主神のよみの國ウツクニひつりて顯國ウツクニより

給ひて功を立給へるままでの神代の段々と引合せ見て被のむねの

妙たへなることとささるべー

如此久失瀝天皇我朝廷乎始カクウシナヒチバヌラガミカドヲハジメテアメノシタヨモニハツミトイフツミハ天下四方波罪止云布罪波

不在止
アラジト

上小皇御孫之命乃朝廷乎始すめみまのみことのみかぎとて云々罪止云布罪波不在止つみといふつみはありトモといひ

まゝ云々事之如久遺罪波不在止ことこのことこのころつみはありトモといひて又々ふもかくしる

同トこといふづりに重かさなりて拙ちがきが如くなれどこれ古文の

つねよしそよく語の條理すぢをたゞし見まを拙ちがりらば條理すぢ

よくとわりて聞きこゆるなり

被給比清給布天皇我朝廷能大御手振手振止志ハラヒタマヒキヨノタマフスメラガミカドノオホミテフリヲテフリトシチ

畏美畏毛稱言竟奉止良久申頌カシコミカシコミモタヘハトヲヘマツラクトマラス

この結尾をはりの文ハ今新あらたふ加へたるなり依て圍をと附て本文と分てり

手振てぢりといふ風儀といふが如き意よて此大被みかどハ朝廷てまで行ひ
給ふ御式なるもその朝廷の御風儀ならハ習なひ奉まりて今も此詞このことば
と唱なへ被は禊ひの式しきを行なふ事ことなれば大御手振おほみでぢり手振てぢりといふ
なり

神道
禊教
大被詞畧注下卷 畢

明治十五年九月二十日板權免許
同 年十月 出版

神道禊教本院蔵版

東京下谷區下谷西町二番地

院長 權大講義坂田鐵安

同 區同町一番地寄留

撰者 權少講義坂田安治

山梨縣甲府常盤町四番地

發兌

温古堂

内藤傳右衛門

東京日本橋區通塩町十一番地

弘賣

同

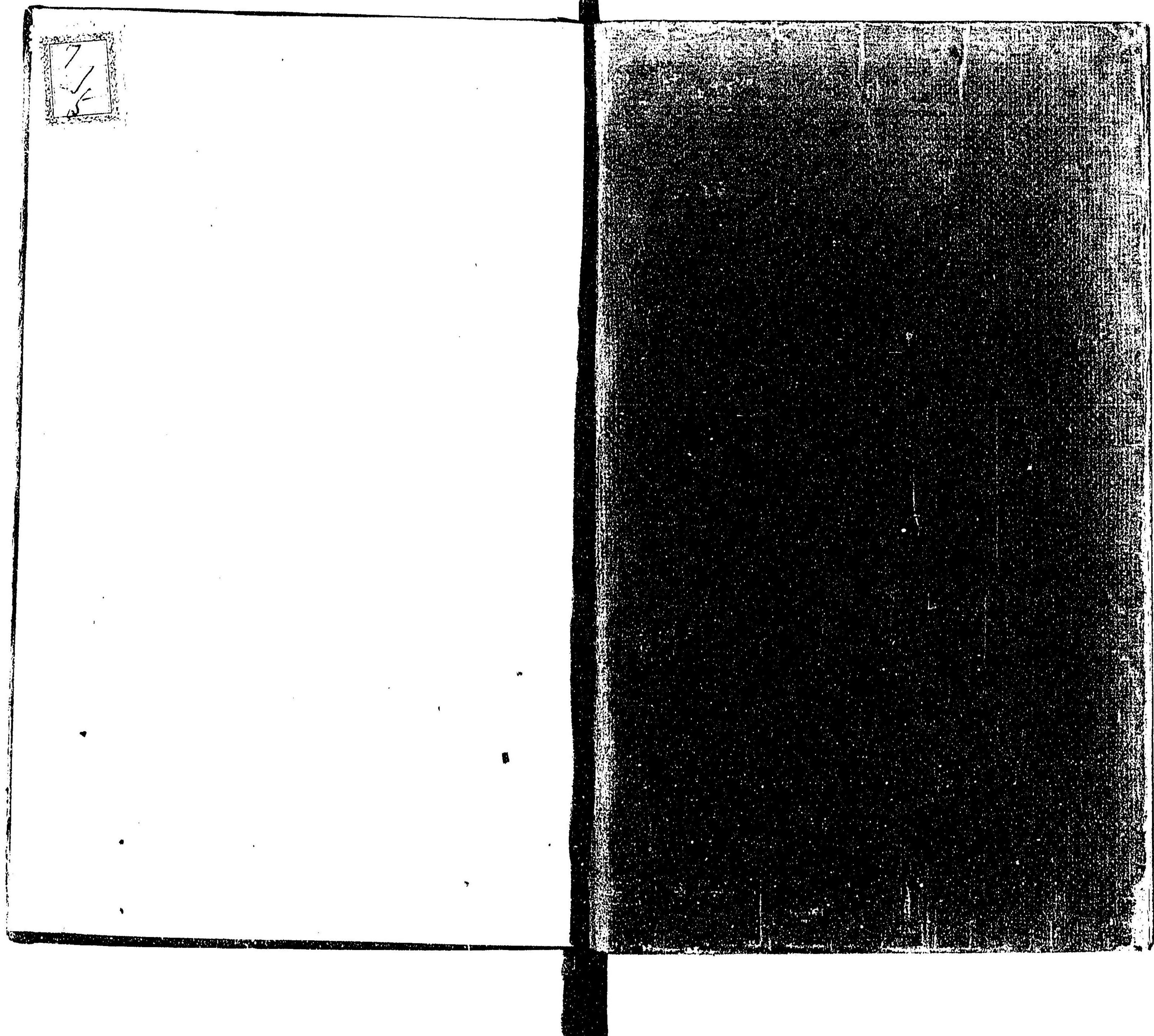
支店

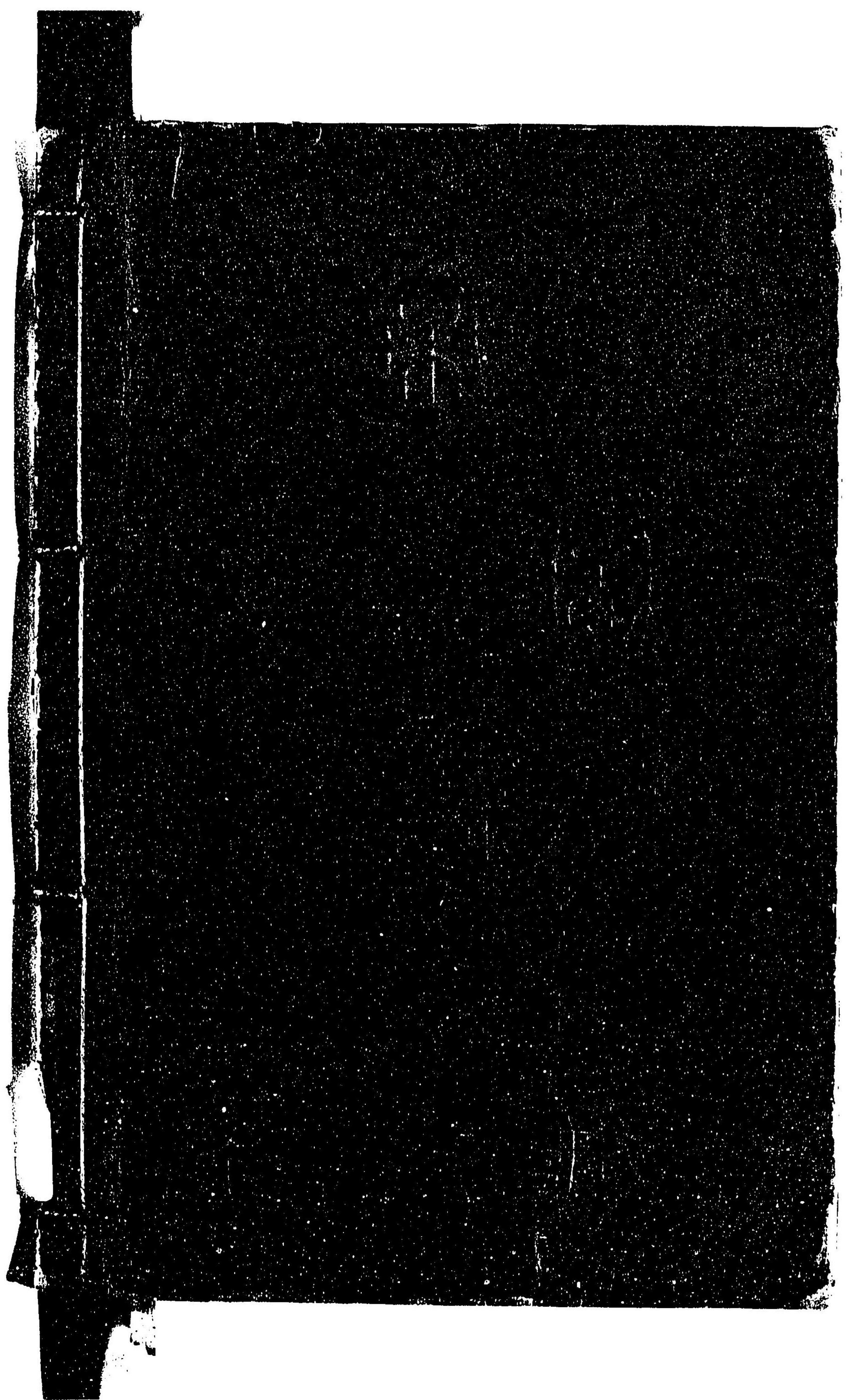
同 神田區雉子町三十四番地

全

芳潤堂

高橋源助





7

5

013881-000-7

7-5

大祓詞略詮(神道禊教)

坂田 安治/著

M15

ABB-0105

